

## 幼稚園の中の遊び

○倉持清美

無藤 隆

(お茶の水女子大学) (お茶の水女子大学)

◆問題：幼稚園とは、たくさんの子どもがいて、様々な遊びを展開している場所である。おままごとをしている子どももいれば、製作をしている子どももいる。この別々の遊びを展開している子ども達同士も、関わりを持つことがあるだろう。従来の研究では、主に遊び集団内での遊びの展開が問題とされてきた。しかし、実際の場面では、遊びは遊び集団内だけで閉鎖的に展開しているものではない。それまで遊びに関わっていなかった子どもが仲間入りして来ることもあるし、遊びが展開されている場所にあるものを借りて来ることもある。また、遊び集団以外の子どもに関わって行くこともある。こうした関わりがあることが、たくさんの子ども達が集団で生活している幼稚園の遊びの一つの特徴と言えるのではないだろうか。

それではある遊び集団に他の子ども達が関わって来ることは、その遊び集団にとってどのような意味を持つだろうか。それまで役割やストーリーを共有しながら展開していた遊びに、仲間入りを求められたり、物を借りることを求められたりすると、遊びを一時中断しなくてはならないし、中断後に遊びを修復しなくてはならないだろう。そのため遊び集団側は遊びをできるだけ中断されず、また遊びをスムーズに再開することが必要になってくるだろう。また、遊び集団内の子どもが他の子ども達に関わりを求めて行く時に、そのことが展開されている遊びを更に発展させるかもしれないし、あるいはそのまま他の遊び集団に入ってしまうかもしれない。どちらの場合も遊び集団になんらかの変化をもたらすことになるだろう。そこで本研究では、視点を遊びを展開している遊び集団にすえ、仲間入りなどの遊び集団に他児が関わってくる事象と、遊び集団が他児に関わって行く事象とでの2つの関わりを検討することにする。特に、それまで展開されていた遊びへ、他児との関わりをどのように反映させていくかに焦点を当てて検討する。

◆方法：東京都内の幼稚園の3歳児クラスを1990,9～1991,1月まで観察した。自由遊び場面で、指向性マイクを取り付けた録音機により、遊び集団の会話を収録し、周囲の状況、非言語的表現をフィールドノートに記述した。記録の中から、遊び集団と集団以外の子どもの関わりを抽出し、どんな関わりがあるか、遊び集団側はど

のように反応しているかについて分析を行った。

## ◆結果と考察

遊び集団が展開していた遊びの事例は12。その中で、遊び集団以外の子どもと関わるエピソードは57。

表1：遊び集団との関わり方のエピソード数。

他児が関わるエピソード			他児に関わる	
仲間入り	物を借りる	侵入	ぬける	交渉
32(×7)	10(×2)	7	3	5

注：×は、仲間入りの失敗、物を借りれなかった場合。「抜ける」は他の遊びにはいる場合。「交渉」は、他の遊び集団の子どもと何か関わりを持つ場合。

表1から、遊び事例1つに遊び集団以外の子どもと関わる約4.6エピソードがあることがわかる。

次に、エピソードの中から、各々の項目について事例を挙げて検討する。

## ◇遊び集団に関わって来る場合。

1. 仲間入り：仲間入りとは、ある遊びを展開している遊び集団の一員に他の子どもがなることである。次に仲間入り直後の言動を示す。

表2：仲間入り直後の言動（仲間入り成功25エピソード）

言動	役付与	役宣言	状況説明	計
遊び集団側	8	3	4	15
言動	役確認	役宣言	状況確認	計
仲間入り側	3	3	2	11

注：・役付与－「お母さんやって」・役宣言－「私お母さんだから」・状況説明－「いま、おにぎりつくってるの」・役確認－「お母さんやっていい？」・状況確認－「なにやってるの？」

表2から、遊び集団側は展開されている遊びについての情報を提供し、仲間入り側は確認をすることで、展開されている遊びについての情報収集していること

がわかる。次の事例は、ゆりとたかの遊びに、べにが仲間入りし、役割を確認しあう場面である。

#### 事例 1

べに・いれて

ゆり・いいよ

べに・いれて、\*いい? (\*=聞き取れなかった発話)

たか・いいよ

べに・あたしおねえさん? (役確認)

ゆか・あたしおかあさんだから、 (役宣言)

べに、あたしおねえさんね、 (役宣言)

た・うん

役や状況は、ごっこあそびを構成している枠組みと言える。それをこの事例のように、仲間入り後にお互いの役を確認しあうことによって、その後の遊びをスムーズに開始することができるのかもしれない。

2. 物を借りる: 遊びを展開している遊び集団の場所にある物を他の子どもが借りに来る場合。

借りにきた10事例のうち5事例は、遊び集団が仲間に入れようとしていた。つまり、役を与えたり、仲間に入れることを宣言するのである。次の事例は、ときおが引出しを開けて物をとろうとしたところを発見したゆりがときおを引っ張るところから始まる場面。

#### 事例 2

ゆり・うるさい、うるさい

ときお・いたい、いたいじゃないよ

べに・あなたお父さんね、

ゆり・私がお母さんなのよ

残りの5事例は、すぐに貸したり、2,3回のやり取りで物を渡してしまう場合であった。従って、それほど遊びに大きな影響を与えなかったのかも知れない。

3. 侵入: 遊びを展開している場所に他児が邪魔しに来る場合。

侵入の7事例のうち5事例は遊び集団に侵入し邪魔した時に、遊び集団側の方がその子どもに役を与えて仲間の一員にしてしまった。次の事例はたかがゆかりたちが遊んでいる場所へ、おもちゃの蛇を持ってきて脅かす。少しもめた後の場面。

#### 事例 3

ゆり・たかくん、おとうさんにしまししょうか、ね、

ゆか・お父さんだ

ゆり・お父さん、今日はね、遠足なのよ、早く、ここにいれなさいって言ったでしょう。

たか・え? これを?

この事例のたかは、結局遊び続けることはなかった。侵入事例の場合、役を与えられても遊びに定着するこ

とは少ないようである(5事例のうち1事例のみであった)。しかし、遊び集団の子ども達は、邪魔しにきた子どもといつまでも争っているのではなく、役を与え仲間の一人にすることで、遊びを続けようとしているのかも知れない。

#### ◇遊び集団が関わる場合

1. 抜ける場合: 抜ける場合は、殆ど遊び集団に断わることはなかった。抜けた後の遊び集団では「～ちゃんどこいっちゃったんだろうね」ぐらいの言及に留まっていた。

2. 交渉: 側で遊んでいる別の遊び集団の子どもと関わりをもつ場合である。次の事例のように、なんらか、自分達の遊び集団で展開されている遊びと関連を持たせて交渉している。

事例 4. れいとべにはおままごとコーナーで、お母さんとお姉さんになって遊んでいる。近くで他の子ども達もままごとをしている。

れい・ちょっといってきまーす、ちょっといってくるから、おともだちんちいってくるから  
べに・うん

この事例では、他の遊び集団の子ども達のところへ行くことを「お友達のうちへ行く」と言及して、自分達の遊びとのつながりを持たせていることが伺える。

事例 5. めぐとちえが遊んでいる側に他の子ども達がやって来る。めぐは赤ちゃん、ちえはお母さんになっている。めぐが他の子ども達と関わろうとする場面から。

めぐ・パプー一緒に、

ちえ・だめだめ、あのこはだめよ、

めぐ・遊ばないよ

ち・泥棒なの、 いっちゃだめ、

めぐ・でも

ち・首からだすとだめ、

めぐ・あの子が入ってきたらね、うえーん、

ち・鍵締めといたから、大丈夫。

他の子ども達を泥棒と位置づけて遊びに取り込んでいる。また、ちえがめぐと他の子ども達との交渉をたつことで、他の遊びへめぐが引かれて行くことを阻止しようとしているのかも知れない。

#### ◆まとめ

様々な遊び集団が遊びを展開している幼稚園ではそれだけ関わり方も多様である。遊びの中で、一緒に遊んでいない他児の関わりは、遊びを壊す危険もあるが、一方で遊びを発展させることも考えられる。自分達の遊びを崩さないように、他児と関わっていくことが、更に遊びを豊かにする一つの要因かも知れない。